

## 中部地方 ESD 活動支援センター主催

### 「地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①」の感想

2022年8月25日中部地方 ESD 活動支援センター主催「地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①」に参加し、江守正多さんと木原浩貴さんの講演を聞きました。江守さんはおもに世界規模での気候変動について、木原さんは地域での脱炭素社会に向けた取り組みについて話してくださいました。

江守さんの話を聞いて、脱炭素社会への考え方が大きく変わりました。わたしはずっと地球温暖化による気温上昇を1.5°Cに抑えるとパリ協定で目標を掲げても、きっと達成は不可能だろうと思っていました。この目標を実現するには多くの人が我慢を強いられ、努力しなければならないのだろうと、悲観的に地球温暖化について考えていました。しかし、この悲観的な考え方こそが地球温暖化を食い止めるうえでの足かせとなっているのではないだろうかと今回、江守さんのお話をきいて感じたのです。いまの社会から「CO<sub>2</sub>を排出するなんて考えられない！」と人々が思うような脱炭素社会という新たな社会へシフトしていくのだと希望をもってこの問題に取り組むべきだと考えを改めました。

また、The '3.5% rule'の例が強烈でした。The '3.5% rule'とは、「国民の3.5%以上が参加する非暴力の抗議運動が起きれば、(ほぼ)必ず変化がもたらされる」という歴史が証明してきた法則なのですが、これを気候変動の問題にあてはめてみれば、全員が関心を示さなかったとしても、3.5%の人々が気候変動に対して、非暴力の抗議運動をおこせば何か変化があるかもしれないということです。この例を聞いたとき、かすかな希望を感じました。「できない」、「無理だ」と思っていたら、できるものもできない。そんな大切なことに改めて気が付かせていただいた講演でした。

木原さんにはヨーロッパの小さな村での持続可能な地域づくりの例をいくつか紹介していただきました。そのような地域づくりを進める前は過疎でほんとうに小さな村だったそうですが、住みたいと思える村に生まれ変わった例をきいて、日本の過疎化が進む市町村も持続可能な地域づくりで生まれ変わることができるかもしれないなど期待をいただきました。地域づくりの話をして、地域をつくるのはやはり住んでいる私たちの役目で、積極的に自分の地元に興味を持ち、かかわっていくことの大切さを学びました。今日、技術の発展に伴い、世界が広がって、地元への関心が薄く、外に出ていこうとする若者が増えていと若者ながらに感じています。そんな現代社会で地域に持続可能な魅力を地元を持たせることが大事だなと思いました。

今回「学び合いの場①」に参加して、これからの社会に対しての考え方ががらりと変わりました。それは、淡々と学校生活を過ごしているだけでは出会う事が難しい「考え方」を学んだからだと思います。

H.S.